



なんでも質問箱

放射線(能)

片寄洋一



“ 眼には見えない放射線、実体が判らないからよけいに怖い
更には恐怖を煽る情報が飛び交い、無責任な風評被害が広まり
世の中は混乱しています。特に避難されている皆さんにとって、
憎き放射線です。しかし怖れてばかりでは 前進はありません。落ち
着いて正しい知識を汲み取って下さい。”

単語の解説から始めます。

まずは原子爆弾からです。 1945年8月6日午前8時広島市上空に侵入した B29 爆撃機
が原爆投下、一瞬にして死の街、廃墟と化した。続いて8月9日長崎市に投下

別論「避難地からの報告」で述べた通りですが、ここで再び述べたいのは、放射性物質
の正体が初めて明らかになったのは投下後に明らかになったからです。

原爆開発はマンハッタン計画によって、研究開発されたモノですが、開発に努力してい
た研究者達は物理学者や理学者が大多数で、放出された放射性物質が人体にどのような作
用があるのか全く判らなかったようです。

終戦になり、アメリカ軍が日本占領を果たしてから、原爆開発を担当した研究達が成果
を知りたくて、チームを編成して広島入りしたが、そこで眼にしたのは焼け爛れ、ボロを
まとって幽霊のようになって彷徨って人達の群に驚き、更に日を追って歯茎から血を流し
て死んでいく、直接原爆の被害を受けなかった人々も、投下後救助に駆けつけた人々も続
々と死んでいく、その現象に仰天したのです。

開発者達は熱線と爆風の怖ろしさは十分研究しており、通常爆弾のように爆発した瞬間
に直接熱線・爆風の被爆を受けた人々が犠牲になり、直接被害を受けなかった人々が、そ
の後で放射線による被曝で大変な被害を受けることをアメリカ側も把握しておらず、も
しこのような惨状をアメリカ市民が知ったならば、投下を命じた大統領や軍幹部、開発し
た技術者が非難されるだろうことを怖れて、報道を禁止したのです。

そこでアメリカ軍の執った処置は、マスコミやその他の報道機関者の広島・長崎入りを
禁止、原爆に関する一切の報道・取材の禁止、報道管制を敷いたのです。

アメリカ国内の報道も規制し、被曝の怖ろしさは機密事項として報道禁止、学校教育に
おいても原爆は世界に平和をもたらした素晴らしい最新兵器だと教え込んだ。

広島における原爆慰霊祭にアメリカ政府関係者が出席したのは半世紀後のことでした。

原爆の怖ろしさ。原爆 1 個で TNT 15 千トンに相当する（第二次大戦当時の爆弾は最
大 1 トンでしたから、1 トン爆弾 15000 個以上に相当する威力があった。）

原爆 1 個の全エネルギーの 35 %が熱線、地表面の温度が瞬間 3000 ~ 4000 にな
り、人体は一瞬にして蒸発、(太陽の表面温度が 5800)

原爆 1 個の全エネルギーの 50 %が爆風、中心部は数十万気圧に達し、この爆風をも